

C型慢性肝疾患に対する抗ウイルス療法に伴うB型肝炎ウイルス動態の検討

1.目的

HBV 既感染患者において C 型肝炎ウイルスに対する抗ウイルス療法が de novo 肝炎を惹起する可能性があるが、C 型肝炎治療における HBV 再活性化については頻度や関連因子など不明な点が多い。本臨床研究では HBV 既感染患者の C 型肝炎患者における抗ウイルス療法に伴う HBV の変動の実態を明らかにすることを目的とする。

2.対象

HBc 抗体陽性または HBs 抗体陽性の C 型肝炎患者で、HCV 選択的抗ウイルス剤 (direct acting anti-virals: DAAs) 療法が施行された患者のうち、以下の臨床研究に同意が得られた患者を対象とする。

- 1) 消化器疾患患者に由来する余分血清の保管
- 2) Genotype1 型 C 型肝炎患者に対するダクラタスビル・アスナプレビル療法の治療効果ならびに安全性についての検討
- 3) Genotype2 型 C 型肝炎患者に対するソホスブビル・リバビリン療法の治療効果ならびに安全性についての検討
- 4) Genotype1 型 C 型肝炎患者に対するレジパスビル・ソホスビル療法の治療効果ならびに安全性についての検討
- 5) Genotype1 型 C 型肝炎患者に対するパリタプレビル・オムビタスビル療法の治療効果ならびに安全性についての検討

3.研究者

消化器内科：飯尾 禎元 他

4.研究期間

実施承認後 ～ 西暦 2026年3月31日

5.研究に関する情報公開の方法

研究成果は、研究対象者を特定できないようにした上で、学会や学術雑誌等で公表する。

平成 28 年 6 月 21 日 倫理委員会承認 (受付番号H28-10)